

レース結果

1. SUPER GT

スーパーGTは、GT500、GT300とも予め決勝第1、第2レースに出場登録されたドライバーが30分間走行し、そのベストラップタイムで各決勝レースのグリッドを決める公式予選を実施し、12日(土)に決勝第1レース、13日(日)に決勝第2レースを各100km(22周)、スタンディングスタートで行いました。

(1)GT500

決勝第1レース【12日(土) 15:15スタート 曇り 100km/22周】

決勝第1レースは、ポールポジションのR・クインタレリ選手(S Road MOLA GT-R)が好スタートを切り、トップをキープします。しかし、終盤に入るとJ・P・デ・オリベイラ選手(#12カルソニックIMPUL GT-R)が0.5秒差で追うシーンが展開されますが、その猛攻を凌いだR・クインタレリ選手が優勝を飾り、2位はJ・P・デ・オリベイラ選手が獲得しました。

会場を沸かせたのは脇阪寿一選手(#35 D'STATION KeePer SC430)でした。予選13番手から凄まじい追い上げを見せ、3位を走行するA・ロッテラー選手(#36 PETRONAS TOM'S SC430)をファイナルラップのヘアピンコーナーでかわし、今季初となる3位表彰台を飾りました。

決勝第1レース上位3位

Pos	No	Driver	区分	Machine	Time/Gap	予選順位
1	46	R・クインタレリ	西	S Road MOLA GT-R	35分18秒666	1位
2	12	J・P・デ・オリベイラ	東	カルソニックIMPUL GT-R	0秒541	4位
3	35	脇阪寿一	西	D'STATION KeePer SC430	13秒823	13位

決勝第2レース【13日(日) 15:25スタート 晴れ 100km/22周】

決勝第2レースでは、予選4番手の伊沢拓也選手(RAYBRIG HSV-010)がポールポジションでシリーズチャンピオンの柳田真孝選手(S Road MOLA GT-R)を1周目で抜くと、その後、2人の接戦が続いたものの伊沢選手が逃げ切り優勝を果たしました。

2位には柳田真孝選手が入り、決勝第1レースでの優勝と合わせ総合優勝に輝くとともにJAFグランプリタイトルを獲得。3位は予選14番手から猛追した金石年弘選手(KEIHIN HSV-010)が獲得しました。

決勝第2レース上位3位

Pos	No	Driver	区分	Machine	Time/Gap	予選順位
1	100	伊沢拓也	東	RAYBRIG HSV-010	35分23秒326	4位
2	46	柳田真孝	東	S Road MOLA GT-R	2秒685	1位
3	17	金石年弘	西	KEIHIN HSV-010	6秒702	14位



GT500決勝第2レーススタート



決勝第2レースでトップ争いをする伊沢拓也選手と柳田真孝選手



総合優勝を飾ったR・クインタレリ選手と柳田真孝選手(中央)

(2)GT300

決勝第1レース【12日(土) 12:45スタート 曇り 100km/22周】

決勝第1レースは、ポールポジションの平中克幸選手(#11 JIMGAINER DIXCEL DUNLOP 458)がスタートで出遅れ、好スタートを切った予選2位の谷口信輝選手(#4初音ミク グッドスマイル BMW)が第1コーナーでトップに立つと最終ラップまで1位をキープしていました。しかし、タイヤの磨耗が厳しくなり最終ラップのパナソニックコーナーで2位を走行していた藤井誠暢選手(#33 HANKOOK PORSCHE)に抜かれ、誰もが「万事休す」と思い描いた中、藤井選手の直後についていた谷口選手がスリップストリームを活かしてゴール直前で抜き返し、わずか0.092秒差でトップチェッカーを受け、ドラマチックな優勝劇を披露しました。

2位は藤井誠暢選手、3位は予選13番手から追い上げを見せた松浦孝亮選手(#43 ARTA Garaiya)が獲得しました。

決勝第1レース上位3位

Pos	No	Driver	区分	Machine	Time/Gap	予選順位
1	4	谷口信輝	西	初音ミク グッドスマイル BMW	38分43秒758	2位
2	33	藤井誠暢	東	HANKOOK PORSCHE	0秒092	3位
3	43	松浦孝亮	西	ARTA Garaiya	22秒224	13位

決勝第2レース【13日(日) 14:10スタート 晴れ 100km/22周】

決勝第2レースは、ポールポジションの高木真一選手(#43 ARTA Garaiya)がレースをリードしますが、予選3位の田中哲也選手(#11 JIMGAINER DIXCEL DUNLOP 458)が白熱したバトルの末に高木選手をオーバーテイクしトップに躍り出ましたが、予選12番手から猛烈に追い上げてきた番場琢選手(#4初音ミク グッドスマイル BMW)が7周目でトップの田中選手をパスするとそのまま逃げ切ってチェッカーを受けて優勝。2位には予選10番手から猛追した影山正美選手(#33 HANKOOK PORSCHE)が、3位には田中哲也選手が入賞しました。

決勝第2レース上位3位

Pos	No	Driver	区分	Machine	Time/Gap	予選順位
1	4	番場琢	東	初音ミク グッドスマイル BMW	38分49秒720	12位
2	33	影山正美	東	HANKOOK PORSCHE	5秒561	10位
3	11	田中哲也	西	JIMGAINER DIXCEL DUNLOP 458	6秒032	3位



GT300 決勝 第2レーススタート



GT300 総合優勝を獲得した初音ミク グッドスマイル BMW



総合優勝の谷口信輝選手と番場琢選手(中央)

2. Formula NIPPON

・決勝レース【13日(日) 12:00スタート 晴れ 100km/22周】

12日(土)の公式予選では、3周目のストレートエンドでの最高速度とラップタイムの合計得点で決勝レースのグリッドを決定する方式を採り、305.516km/hと2番手の最高速度と1分25秒756のトップタイムを出した**J.P. デ・オリベイラ選手**(#1 TEAM IMPUL)がポールポジションとなりました。

13日(日)の決勝レース(100km/22周)でもスタートからそのままトップを独走してポールトゥウインを飾り、**総合優勝とJAFグランプリタイトル**を獲得しました。

また、2位を**石浦宏明選手**(#8 Team KYGNUS SUNOCO)が、3位は**中嶋一貴選手**(#37 PETRONAS TEAM TOM'S)がそれぞれ獲得しました。



Formula NIPPON 決勝スタート



優勝したJ.P. デ・オリベイラ(中央)

決勝上位3位

Pos	No	Driver	区分	Entrant	Time/Gap	予選順位
1	1	J.P. デ・オリベイラ	東	TEAM IMPUL	32分17秒217	1位
2	8	石浦宏明	東	Team KYGNUS SUNOCO	6秒447	3位
3	37	中嶋一貴	西	PETRONAS TEAM TOM'S	18秒341	2位

3. 併催レース

また、本大会では併催レースとして、日本独自のナショナルフォーミュラカーレースである「**国土交通大臣杯F4レース日本一決定戦**」と国内最多参加台数を誇るJAF公認のナンバー付車両による「**Netz Cup Vitz Race 2011 GrandFinal**」を開催しました。

75台が参加したVitz Raceは、2グループに分けた11日(金)の予備予選で45台に絞られ、13日(日)朝の予選を経て、14時10分に決勝レース(11周)がスタート、優勝を果たしたのは被災地からのサポートを受けて紅一点で参加した**小山昌子選手**(#35ネットヨタ仙台グイツ)でした。

F4は25台が参加し、12日(土)の予選で2位につけた**西本直樹選手**(#50 B-MAX・RK01・TODA)が、13日(日)の決勝レース(15周)では、1周目でトップを奪いそのまま優勝を飾りました。



F4決勝レーススタート



Vitzレースで優勝した小山昌子選手(中央)

4. ENEOS SUSTINA LEGEND CUP

昨年大会で盛り上がりを見せた往年のトップドライバーによるエキジビジョンレース「レジェンドカップ」を、今年ハイブリッドスポーツCR-Z (Honda Sports & Ecoプログラム仕様) を使用して実施し、競技車両の屋根にはドライバーの現役当時の顔写真を貼付することで、観客が判別できるようにしました。

12日(土)に行った**ドライバースブリーフィング**では、配布された資料を手に「字が小さくて見えない！」や、レジェンドカップのプロデューサーでもあるGTアソシエーション執行役員を務める服部尚貴氏がレースのルールを説明すると「さっぱり分からない！」の声上がり、さらには名誉競技長を務める星野一義氏が「皆さん、ルールを守って走りましょう！」とコメントをすると、「一番分かってないのは星野さんだ！」と茶化すなど、笑いが絶えないブリーフィングとなりました。

また、同日の練習走行兼予選では、2分16秒840のラップタイムをマークした**黒澤琢弥選手**(49歳)が、トップとなったものの、年齢から50を引いた秒数を予選タイムからマイナスするハンディ制の導入により、ポールポジションは71歳の**高橋国光選手**となりました。

翌日の決勝レース前にはメインストレートに敷かれたレッドカーペット上で出場選手を一人ずつ紹介後、13時15分にスタンディングスタートにより決勝レースが幕を開けました。

11番グリッドの**館信秀選手**(64歳)と前日まで海外出張でこの日初めてステアリングを握る最後尾の**寺田陽次郎選手**(64歳)がフライングスタートをしてしまうと、「2台はフライングスタートですがこのまゝいきます。後で怒ります」との判定にスタンドからは大爆笑が起こりました。また、館選手と**土屋圭市選手**(55歳)がヘアピンで接触すると、「土屋選手には修理代支払のペナルティを科す」との判定が下され、会場は再び爆笑の渦となりました。

一方、レースも白熱したバトルが序盤から展開され、終盤予選10番手から猛追してきた**中嶋悟選手**(58歳)が高橋国光選手をパス後、予選3位からトップに躍り出ている**長谷見昌弘選手**(66歳)を抜きトップを奪いましたが、ファイナルラップで長谷見選手と高橋選手が逆襲して中嶋選手を抜き返し、元日産ワークスの後輩、先輩コンビが1-2フィニッシュを飾りました。



ドライバースブリーフィング後の集合写真



優勝した長谷見昌弘選手の車両



チェッカーフラッグを振る星野一義名誉競技長

決勝結果

Pos	Driver	年齢	区分	Time/Gap
1	長谷見昌弘	66	東	18分 46秒 329
2	高橋国光	71	東	1秒 888
3	中嶋悟	58	西	2秒 344
4	鈴木亜久里	51	東	2秒 766
5	土屋圭市	55	東	2秒 964
6	近藤真彦	47	東	5秒 205
7	見崎清志	65	西	7秒 415
8	津々見友彦	69	東	7秒 807
9	黒澤琢弥	49	西	7秒 966
10	星野薫	64	西	12秒 759
11	柳田春人	61	東	13秒 170
12	関谷正徳	61	西	14秒 561
13	岡田秀樹	52	西	23秒 142
14	寺田陽次郎	64	西	33秒 860
15	鮎子田寛	65	西	35秒 684
16	大岩湛矣	72	東	53秒 560
17	館信秀	64	西	56秒 844
18	鈴木恵一	62	東	58秒 443

5. 各種セレモニー

本大会ならではの各種セレモニーも行いました。

12日(土)9時35分から行ったオープニングセレモニーでは、スーパーGTとフォーミュラ・ニッポンのドライバーやチームスタッフが行進しながらメインストレートに入場し、東西対抗戦両軍キャプテン(東軍:**本山哲選手**/西軍:**脇阪寿一選手**)と大会公式サイトでの総選挙によって選ばれた東西両軍の応援団長(東軍:**織戸学選手**/西軍:**谷口信輝選手**)がメインスタンドのお客様に向かって挨拶しました。

その後、ロックバンド「アースシェイカー」のボーカル**西田昌史氏**による国歌独唱を行いました。



ストレート上に整列した各チーム



東西キャプテン・応援団長による挨拶

13日(日)10時5分スーパーGTとフォーミュラ・ニッポンの全車両がメインストレートに整列後、静岡県副知事の**大村慎一様**と日本自動車連盟(JAF)会長の**田中節夫様**にご挨拶をいただき、陸上自衛隊富士学校音楽隊による国歌吹奏を行いました

その後、オールグリッドウォーク、スーパーGTとフォーミュラ・ニッポンの全車両がコースをパレードラン、ドリフトの第一人者である**稲田大二郎氏**とドリキン**土屋圭市氏**が率いる**ドリフトマッスル**がドリフト走行の妙技を披露するデモンストレーション走行を行い、大会を盛り上げました。



ストレート上に整列した全車両



来賓関係者



陸上自衛隊富士学校音楽隊による国歌吹奏



ドリフトマッスルデモンストレーション走行

全てのレースプログラムが終了した13日(日)の16時半からは**グランドフィナーレ**を行い、スーパーGT (GT500、GT300)、フォーミュラ・ニッポンの**総合表彰**や**国土交通大臣賞表彰**、**東西対抗戦最終結果発表**などを実施しました。

東西対抗戦は一時西軍がリードをしていましたが、最終結果は東軍762ポイント、西軍628ポイントと、昨年に引き続き東軍の勝利に終わりました。

最後に、全ドライバーが勢ぞろいし、勝利した東軍応援団長**織戸学選手**のリードで、「WE LOVE MOTOR SPORTS!」のシュプレヒコールで大会の幕を閉じました。



6. 各種イベント

メインステージではスーパーGTやフォーミュラ・ニッポン、レジェンドカップ参戦ドライバーのトークショー、キッズダンスやミニライブ、お子様向けプレゼント抽選会などを行いました。また13日のグランドフィナーレ終了後にはチェカドライバートークショー(松田次生選手・平手晃平選手、蒲生尚哉選手)を実施しました

さらに、歴代GTカーや**陸上自衛隊の車両展示**や東日本大震災支援を含む活動写真展、被災地物産展「**がんばろう市**」、スーパーGTとフォーミュラ・ニッポン参戦ドライバーのプライベート写真を盛り込んだ「**トキメキ写真展**」なども出展しました。

お子様向けにはキッズスクエアやキッズカート教室、ソーブボックスモックカー教室などを実施しました。

11月11日(金)には、御殿場市、裾野市、小山町の公立小学校の5年生児童と静岡県立御殿場特別支援学校の高等部の生徒、延べ600名を体験学習として招待し、時速300kmで走るフォーミュラ・ニッポンのフリー走行やスーパーGTの公式予選を見学してレースの迫力を楽しんでいました。パドックエリアへ繋がる通路では、参加児童や生徒らが描いたドライバーやレーシングカーの絵を披露しました。



キッズダンス



ソーブボックスモックカー教室



装甲車両の前で自衛隊員とドライバー達



中嶋一貴選手も装甲車を体験



11日(金)に体験学習で来場した地元小学生(延べ600名)



地元小学生が描いた絵を展示



お気に入りのドライバー写真に投票して東西戦に参加



歴代のGTカー車両展示



東日本復興支援「がんばろう市」では東北の物産を販売



被災した漁業網を再利用したグッズ「アミネット」

以上

【本プレスリリースに関するお問い合わせ】

株式会社GTアソシエーション

黒田 TEL:03-6426-2501

公式サイト <http://www.supergt.net>

株式会社日本レースプロモーション

遠藤 TEL:03-3237-0131

公式サイト <http://www.f-nippon.co.jp>

富士スピードウェイ株式会社

徳山 TEL:03-3556-8511

公式サイト <http://www.fsw.tv>

